

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立嘉瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

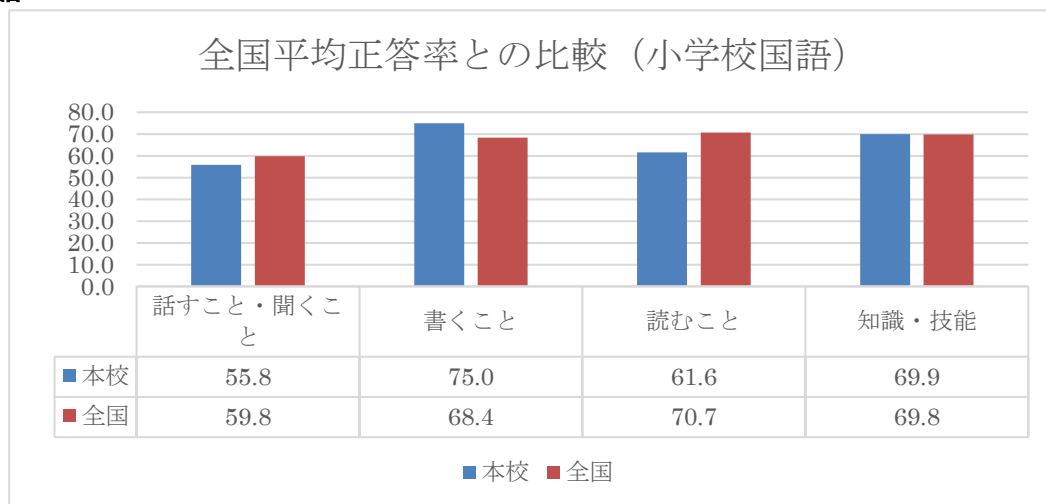
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

「書くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回りました。対照的に、「読むこと」「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率を下回っており、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも高い結果となりました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」の分野で正答率が全国平均正答率を6.6ポイント上回りました。中でも、「情報の扱い方に関する事項」では、全国平均を大きく上回りました。目的や意図に応じて、情報を収集し、分類・整理する言語活動を、国語科だけでなく他教科でも多く取り入れている成果が表れていると考えられます。課題は、「読むこと」の正答率を上げることです。正答率は、全国平均正答率を9.1ポイント下回っており、苦手になっている児童が多くいます。特に、物語文の登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えたり、人物像を具体的に想像したりする問題に課題がみられました。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

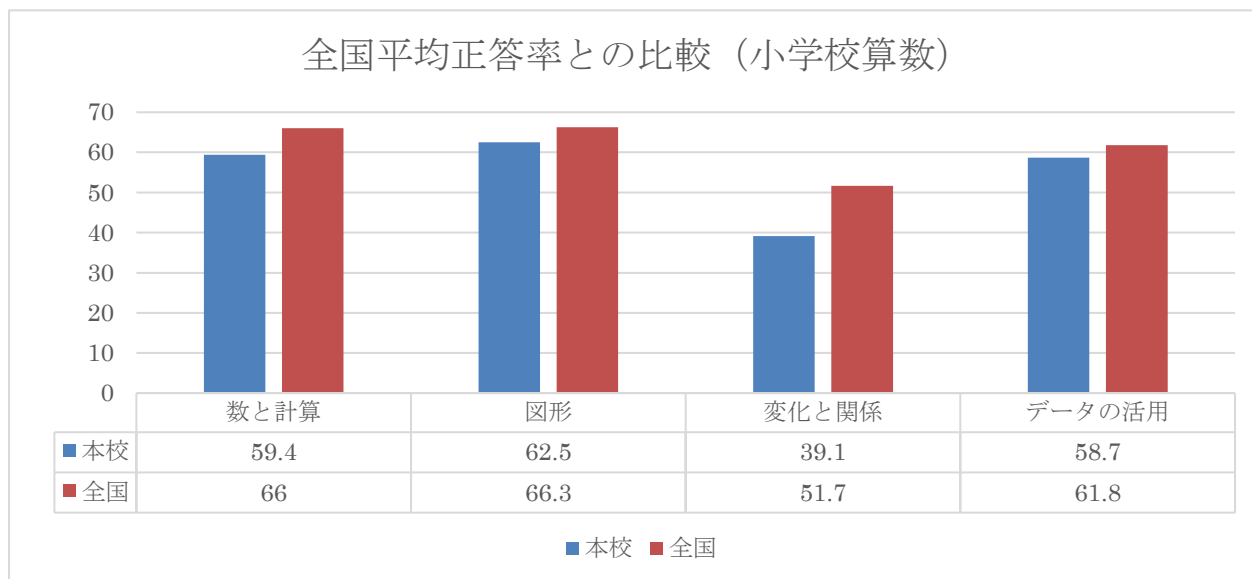
【学校では】

- 児童が主体的に学べるような学習課題を示して、どのような力を身に付けるのかを共有します。加えて、授業の進めかたを工夫することで、児童同士が話し合いながら、深く学んでいくことができるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 長文を読む力を向上させるために、叙述に沿って人物像や場面を想像させながら、全体像をつかむ学習に取り組みます。
- 授業や宿題等で、言葉の「意味調べ」に取り組みます。また、調べた意味を文脈の内容に照らし合わせることで、人物像や心情を想像していく授業の工夫に取り組みます。

【ご家庭では】

- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数(数学)



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でしたが、全ての領域で全国平均正答率をやや下回っています。無解答率については、選択式の問題はほぼ全国平均と同等でしたが、短答式・記述式の問題は全国平均よりも上回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査において、「図形」と「データの活用」の領域で「知識・理解」を問う問題では、平均正答率が、全国平均正答率を上回りました。展開図をかいたり、表を読みとったりする学習で、実際に具体物を使って操作する活動に取り組んできた成果が表れていると考えられます。課題は、「変化と関係」の領域の、速さと道のりと時間の関係やその意味に関する問題の正答率が全国平均を下回っていました。式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、実感を伴った理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 問題文の大切な情報に線を引いたり、その情報を絵や図に書き込んだりして、問われていることは何かを把握し、問題を正しく読みとらせるようにします。
- TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	82.6%	83.4%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	34.8%	39.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	60.9%	56.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	52.2%	43.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	71.7%	60.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	65.2%	71.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	58.7%	79.5%

朝食の喫食率、起床・就寝についてはほぼ全国平均でしたが、就寝時刻が定まっていないのが気になります。数値的にはまだまだ習慣化に向けた手立てが必要だと考えられます。日々の生活リズムを見直す機会と捉え、指導をしていきます。また、いじめに関する意識は「どちらかといえばあてはまる」を含めると93.5%となり、ほとんどの児童がいじめはいけないことと認識していますが、人権意識をさらに磨いて、どんな理由があってもいじめはいけないという意識を高めていきたいと思います。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	10.9%	11.0%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.7%	12.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	19.6%	31.1%
「30分以上、1時間より少ない」	43.5%	27.0%
「30分より少ない」	8.7%	13.0%
「全くしない」	8.7%	5.3%

家庭学習については全国平均より勉強時間が少ない傾向にあります。特に1時間未満の児童が約6割おり、中には全く家庭学習をしていない児童も一定数いました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の目的を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しております。自主学習については、お手本になる自学ノートに掲示するなどして、定着を図っています。高学年では自分で計画を立てて学習に取り組めるような宿題の出し方を工夫していきます。
- 望ましい人間関係を築くことは、社会生活を送るうえで大切なスキルになります。そこで、さまざまな体験をする活動や地域の方々との交流を通して、心を磨く機会にしていきます。

【ご家庭では】

- 規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切なことです。「家庭学習の手引き」をご覧ください。学習時間の目安を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。
- 社会体育や習い事、地域行事など、いろいろな世代の方と触れ合うことで多様な視点で物事を考える力がつきます。そして、そこで関わった身近な大人の姿が、将来の夢や希望となります。ぜひ、たくさんの体験活動に参加されてください。